鳥取県倉吉市における MIM の取組

Ⅰ　倉吉市における教育環境・状況

1　倉吉市における基礎情報（平成 27 年５月１日現在，人口を除く）

（１）人口　　49,071 人
（２）学校数　　小学校　14 校，中学校　５校
（３）児童・生徒数　小学校　2，561 人，中学校　1,234 人
（４）通級指導教室および特別支援学級の設置状況
①小学校
通級指導教室
言語　　２校，２教室
発達　　２校，２教室（１教室は特別支援学校内に設置）
特別支援学級

知的	13 校，	14 学級，	39 人
自閉・情緒	11 校，	14 学級，	56 人
肢体不自由	２校，	２学級，	２人
病弱	４校，	４学級，	４人
難聴	１校，	１学級，	２人

②中学校
特別支援学級

知的	５校，	６学級，	26 人
自閉・情緒	５校，	６学級，	19 人
病弱	１校，	１学級，	１人
難聴	１校，	１学級，	１人

（５）特別支援学校の設置状況
県立特別支援学校　１校
・鳥取県立倉吉養護学校　（知的障がい部門・肢体不自由部門）

2　倉吉市における学力向上関連の施策

（１）文部科学省からの委託事業：なし
（２）県の委託事業
①「小中連携で取り組む『授業改革』ステップアップ事業」
実施期間：平成 26 年４月～平成 28 年３月
概要：子ども達が抱える学力課題を確実に解消して学力向上につなげるため，校種を超えて課題を共有し，R－PDCA（ Plan：企画立案 → Do：実践 → Check：成果・結果評価 → Action：改善策実施 ）に R（Research：実態調査・診断） を加えたサイクル）を確立しながら，10 の視点に基づいた授業改革のステップアッ

プによる学びの質の向上を推進する。

＜10 の視点＞

ⅰ．魅力的な課題・教材の提示
ⅱ．体験的な学習の充実
ⅲ．資料の活用
ⅳ．思考の整理
ⅴ．説明・発表の機会の充実
ⅵ．学び合う活動の充実
ⅶ．学習評価の推進
ⅷ．学習をふり返る活動の設定
ⅸ．家庭学習と連動した学びの定着
ⅹ．落ち着いてのびのびと学べる環境づくり
（学びの集団・人間関係づくり）

②「『校種を超えたスクラム教育』推進事業」

実施期間：平成 26 年４月～平成 29 年３月

概要：小・中９年間を見通し，一貫して確かな学力の向上を目指す。

・学校と地域が一緒に子どもを育てる体制づくりの推進
・子どもの主体的・共同的な学びを目指す授業改革の推進
・小中高連携による教科指導の体制づくり
・教員の指導力の向上

（３）市独自の事業：なし

３　倉吉市における発達障がい関連の施策

（１）文部科学省からの委託事業

・「発達障がいの可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業」

実施期間：平成 27 年４月～平成 28 年３月

概要：倉吉市内 14 小学校１年生に対して毎月「MIM-PM」を実施し，ひらがなの読みの実態を把握。異なる学力層の児童に対する効果的な指導方法の研究・実践を行う。

（２）鳥取県からの委託事業：なし

（３）市独自の事業

①「倉吉市特別支援リーダー育成研修会」

実施期間：平成 20 年度より実施（年４回開催）

概要：発達障がい等，配慮を要する児童生徒に対する応用行動分析の知識と技術を学び，問題行動に対して適切な対応ができ，特別支援教育に関する事例検討で指導や助言のできるリーダーを養成する。

②「倉吉市子どもの発達支援研修会」

実施期間：平成 24 年度より実施（年１回開催）

概要：特別な支援を要する児・者の理解と対応を学校現場はもちろん地域住民にも広げることを目的とし，就学前から小・中・高，さら

に児童館・放課後児童クラブ等関係機関職員，保健師，行政職員，保護者，民生児童委員，地域住民が集まり，実践発表や講演を聞く。

４　発達障がいのある子ども等への支援のリソース

（１）支援員や巡回相談等の人的支援

① LD 等専門員（県内 12 名配置。内１名が倉吉市で支援）

概要：LD，ADHD，自閉症スペクトラム等の幼児・児童・生徒及びその指導に携わる教員，保護者等を対象に相談活動を行う。

・特別な教育的支援を必要とする幼児・児童・生徒に係る指導・支援に係る助言。

・校内・園内支援体制の充実に向けた助言

・全職員を対象とする研修会による理解啓発

② 特別支援学校地域支援担当（特別支援教育コーディネーター）
（県立特別支援学校１名）

概要：地域における障がいのある乳幼児や児童・生徒の保護者や教員に対しての教育相談活動を行う。

③ 通級指導教室担当者
（言語障がい２名，発達障がい１名，県立特別支援学校発達障がい２名）

概要：特別な支援を要する幼児・児童・生徒の保護者や教員に対して指導・相談活動を行う。

④ 巡回指導担当者
（県立聾学校より聴覚障がい１名，県立盲学校より視覚障がい・視知覚障がい１名）

概要：特別な支援を要する幼児・児童・生徒の保護者や教員に対して相談・巡回による指導を行う。

⑤ 倉吉市子ども家庭課児童指導員（１名）

概要：障がいのある子どもと保護者への成長の段階に応じた支援を継続的に行っていけるよう，保健・医療・福祉・教育・就労などの関係機関が連携した支援体制づくりを進めている。幼児期から小学校段階での適切な療育・教育支援を行うと共に保護者への支援・相談活動も行う。

⑥ 教員補助職員（倉吉市 18 名）

概要：発達障がいや基本的生活習慣が身についていない等の理由から，個別の支援を必要とする児童生徒に対して個別支援を行う。
特別な資格・要件はなし。

⑦ スクールカウンセラー（中学校区ごとに１～２名，計７名）

概要：児童生徒，保護者，教職員等へ不登校や問題行動等の心の悩み，問題に専門的立場から助言・援助を行う。

⑧ スクールソーシャルワーカー（倉吉市２名）

概要：児童生徒の悩みや問題について話を聞いたり，保護者の相談に乗

ったりして対応の充実に努める。学校内における支援体制の構築等への助言や教職員等への研修活動等による指導力の向上も図る。

⑨ 心の教室相談員（各中学校に１名，計５名）

概要：生徒達が自分の悩みや不安などを気軽に話せ，安心して学校生活が送れるよう，生徒の相談に耳を傾ける。また，保護者との話し合い・相談活動も行う。生徒たちが悩み，不安等を気軽に話せ，ストレスを和らげることのできるような第三者的な存在として生徒の身近に配置されている。教員以外の視点で生徒を見守る存在。
資格は特になし。

⑩ 発達障がい支援アドバイザー（倉吉市１名）

概要：小学校１年生担任や特別支援教育担当教職員と連携し，児童の困り感，効果的な指導・支援方法について話し合ったり，教材を紹介したりする。また，担任と共に授業改善や個別指導に取り組む。特別支援学級担任・通級指導担当を経験し，教育経験豊富な退職者が担当している。

（２）教材等の提供

①「多層指導モデル MIM」パッケージを各小学校に１セット配付

② 自作教材データ・原稿配布

・ひらがな音読練習用絵カード
・特殊音節単語練習教材
・単語練習用パワーポイントデータ
・特殊音節練習プリント用データ・原稿
・「みっつのことば」練習プリント用データ・原稿
・音読詩集原稿　　等

（３）公的な相談・指導機関

① 通級指導教室

概要：児童・保護者・教職員の多様な相談・指導に対応する。
授業参観，各種検査等を実施し，効果的な授業，個別対応，保護者への説明を行う。実態に応じ，通級指導を始めたり，相談を継続したりする。

② 倉吉市教育委員会学校教育課

概要：児童・保護者・教職員の相談・支援に対応する。
授業参観，授業支援，教材提供等を通し，効果的な授業や個別指導の支援を行う。

③中部子ども支援センター

概要：児童生徒の成長発達，学校生活，不登校・登校渋り等の相談・指導に対応する。当センターに通い，自己コントロール力・コミュニケーション力・学力を伸ばす指導を受けることもできる。

Ⅱ　自治体における MIM の取組

１　MIM に取り組むことになった経緯

文部科学省の委託事業「発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業」（平成 27 年４月～平成 28 年３月）を受けることになった。

本市では８年前より発達障がいの可能性のある児童の早期発見・支援のために，小学校１年生に「ひらがな調査」，３年生に「数に関する調査」を実施してきたが，調査後の児童への対応が学校任せになっており，学習補充や家庭との連携，LD 等，専門員への連携を勧めるだけに終わっていた。

また，学年が上がるにつれて不登校児童生徒が増加する傾向にあり，学習に対する困難さが不登校を引き起こす要因の一つとなってはいないかと推察し，対応を急ぎたいと考えていた。

そこで，市内全小学校にて，１年生の早い段階から読みへのつまずきに対する調査を実施し，そのアセスメントにより，学習面で特別な教育的ニーズのある児童の早期支援に取り組み，学力の保障，さらに不登校への要因を減らしたいと考えた。

２　MIM に関する実施計画

倉吉市内全小学校 14 校１年生（通常学級在籍児童。支援学級在籍児童は児童の実態に応じ実施）

３　MIM に関する事業における行政の具体的役割

（１）全市で「発達障がいの可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業」を推進するために，市内校長会で趣旨説明実施。

（２）MIM の取り組み，具体的支援等についての研修会を実施。

（３）MIM-PM の集計，報告

各学校で実施した MIM-PM の検査結果を集計し，各学校に返信するとともに，市内児童の誤答傾向や支援策の報告・提案。

（４）各小学校への巡回訪問

ひらがなの指導方法，教室環境整備，効果的な指導・支援方法，具体的教材紹介等についての話し合いを実施。

（５）保護者・教職員への理解啓発活動

・通信発行・・・保護者向け（年３回）
　　教職員向け（毎月１回）　　（資料１，２参照）

・教職員研修会実施（希望校）

（６）検査結果検討会開催

・LD 等専門員（県教育委員会で県内に 12 名配置。これらの教育に関して専門的研修を受けた専門教員），倉吉市子ども家庭課児童指導員（４年制大学を卒業し、幼児・児童の発達についての知識がある者），市教委指導主事，発達障がい支援アドバイザーによる，アセスメント結果の検討，支援策提案等について協議

（７）倉吉市オリジナル教材の作成，紹介

４　MIM に関する研修

（１）第１回指導者研修会（５月）

①　講義及び演習　「『MIM』ってなあに？」
講師：福岡県飯塚市立飯塚小学校　杉本陽子　教諭

②「MIM-PM」の実施・提出方法について　発達障がい支援アドバイザー
石橋　良江

③対象者：各小学校管理職，特別支援教育担当者，１年生担任，鳥取市教育センターアドバイザー，LD 等専門員，倉吉市子ども家庭課児童指導員等

④感想：

・杉本先生の具体的な実践を背景に，理論面も含め，MIM についてよくわかる話だった。「読解力」を身につけさせることを目指しているが，その前段階での大切な指導方法がわかりやすく説明されており，この取り組みはまさにユニバーサルデザインの学習だと思う。本校でも低学年の教員だけでなく，全体研修に取り入れたい。

・「読み」は全ての学力の基本ということ。これは全学年に言える。国語の授業で読解力とか表現力の育成とよく言うが，まずはスラスラ読めること，これが第一だということを確認できた。

・MIM－PM の結果から，どういう指導をしていくのか，担任も含め，学校体制として大切になる。よりよい支援を探り，子ども達に早い段階で読める力をつけたいと思った。

・MIM の検査後の指導が大事であることが分かった。MIM の教材の使い方もわかり，とても有意義な研修会だった。色々な教材を使って，つまずきをなくしていくよう頑張りたい。

・実際に自分が体験して，読みが苦手な子どもがどんなふうに困り，どんな気持ちでいるかがわかったように思う。読みが苦手な子が読むことにマイナスイメージを持ったり，消極的になったりすることなく，力をつけていくことができるヒントをたくさんいただいたので，毎日の隙間時間やドリルタイムを有効に使って MIM を活用していきたい。

（２）第２回指導者研修会（８月）

①　講義及び演習　「２nd ステージ指導について」
講師：鳥取県大山町立大山西小学校　　内田　利幸　教諭

②　対象者：各小学校管理職，特別支援教育担当者，１年生，下学年（１－３年生）担任，鳥取市教育センターアドバイザー，LD 等専門員，倉吉市子ども家庭課児童指導員等

③　感想

・「楽しみながら習得する」ことがすごく大事だと思っている。１st 児童が

退屈することなく，いかに２nd 児童への指導の時間を持つかがポイントなのだと感じた。集団の中で指導しなくてはならない難しさをつくづく感じた。

・教えていただいたネタをドリルタイムや授業時間を使って指導していきたい。１年生担任と一緒に教材を作ったり，担任の相談に乗ったりして，子ども達を育てていきたいと思う。

・楽しい実践を紹介していただき，２学期からの読み書き指導の展望が持てた。読み書きが苦手な子ども達にとって，楽しく学習を進められ，意欲づけにもつなげられる。

・自分が児童の立場になって授業を受け，実際に書いたり動いたりすることで，指導のポイントが分かったり，子どもの気持ちを実感したりすることができた。

・１学期を通して，読みの獲得と学力や学習の意欲は比例していると感じた。スラスラ文章が読めるということは児童の学習意欲に大きく関わってくると思う。MIM の教材や指導法を活用して読むことに自信が持てる子を育てていきたい。

・読むだけでなく，身体を動かし，ゲーム感覚でできる方法を知ることができ，早速取り入れたい。カードがたくさん準備され，全員参加できる工夫がされていて，授業の中で取り入れたいと思った。

・色々なアプローチの仕方を学べて楽しかった。自分の学級に合う方法を見つけながら楽しく学習していきたいと思う。

（３）第３回指導者研修会（１月）

①　報告及び演習　「２学期の結果と３rd ステージ指導について」
　　報告者：倉吉市教育委員会発達障がい支援アドバイザー　石橋　良江

②　対象者：各小学校管理職，特別支援教育担当者，１年生・下学年担任，鳥取市教育センターアドバイザー，LD 等専門員，倉吉市子ども家庭課児童指導員等

③　感想

＜２学期の結果から＞

・着実に取組の成果が出ていることがわかり，MIM は効果のある指導法だと思った。また，毎月の結果から，子どもの成長やつまずきを把握することができた。

＜演習・指導＞

・演習が楽しく，わかりやすかったので，子ども達に準備してやりたいと思った。

・パワーポイントや練習プリントの原稿・データははすぐに活用したい。これまでも１年生はもちろん，他学年児童にも活用している。

・少人数や個別指導の時間・指導者をどう確保するかが大きな課題である。

・倉吉市全体での取組であると，校内支援体制を整えやすい。

・来年度の順調なスタートのために，今年度中に「取組のねらい」「取組内容」「年間計画」等について提案して欲しい。

＜保護者啓発＞

・保護者向け通信が役立った。学級懇談会で MIM の話をしたり，実際に MIM-PM に取り組んだりして，保護者の理解を得ることができた。他校の実践も取り入れていきたい。

（４）第４回指導者研修会（２月）

① 実践発表　「小鴨小学校 MIM 読みの指導について」
　発表者：倉吉市立小鴨小学校　　矢田憲子　教諭

② 事業報告　「倉吉市における『多層指導モデル MIM』を活用した
　ひらがな指導の取り組み」
　報告者：倉吉市教育委員会発達障がい支援アドバイザー　石橋良江

③　協議　・校内支援体制と専門機関との連携について
　・３rd ステージ児童を中心に，今後の指導について

④ 対象者：各小学校管理職，特別支援教育担当者，１年生・下学年担任，鳥取市教育センターアドバイザー，LD 等専門員，倉吉市子ども家庭課児童指導員等

⑤感想

＜実践発表＞

・支援の目的や，困難さ解消に向けての共通理解，学校あげての支援体制が素晴らしいと思った。本校でも来年度に向けての支援体制や職員研修を検討していかなければならないと思う。

＜３rd ステージ指導を要する児童への支援＞

・スモールステップで指導していくことで，確実に定着していくことがわかったので，先輩の先生方に相談したり，色々な教材にチャレンジしてみたりしながら指導を続けたい。

・つまずきの原因に目を向け，どこに手を入れればよいのか，校内体制をどう組めば良いのかを考え，実践していけるようにしたい。

＜MIM について＞

・１学期からの MIM-PM の実施により，支援の必要な児童について早めに支援会議を開いたり，支援体制を組むことができたりした。学習面での困り感の軽減につながると確信している。

・教材が豊富で，色々な時間を使って取り組んだ結果，自信を持って音読できる児童が増えた。

・集計結果を見ると，２nd ステージや３rd ステージ指導を要する児童の中に，「気になっていた児童」「はっきりとは気づかずにいた児童」がおり，具体的な数字が出ることで指導・支援をより深く考えることができた。

5　MIM に関する事業についての今年度の成果

（1）「楽しく意欲を持って学習する」ことに心がけたことにより，「読むことが好き」な児童が多い。
（2）毎月 MIM-PM を実施することにより，児童一人一人の「文字の読み」の実態を把握することができ，授業の工夫・改善を行うことができた。
（3）動作化，視覚化を心がけ，スモールステップによる指導を行うことができた。
（4）絵カード，スライド，音読集，視知覚・聴知覚ドリル，プリント等多様な活動に取り組むことができた。
（5）「読むことが苦手」な児童への個別指導，授業中の配慮を行うことができた。
（6）「文字の読み」だけでなく，「表記の力」「語彙力」も向上した。
（7）校内職員，保護者の理解が深まった。

6　MIM に関する事業についての今年度の課題

（1）１学期の取り組みの充実
（2）１年生担任への「ひらがな指導」についての研修会や巡回訪問を早い時期に実施する。
（3）学習の進度に応じたスモールステップのプリントを作成し，繰り返し練習できるようにする。
（4）清音・濁音・半濁音の文字カード，絵カードを作成し，早い時期に１文字ずつの読みの定着を図る。
（5）特殊音節指導に合わせた教材を準備し，楽しみながら特殊音節の定着に努める。
（6）３rd ステージ児童への，早期からの個別指導を行う。
（7）校内支援体制の構築。
（8）職員研修，校内支援委員会を実施し，「ひらがな指導」や「児童の実態」についての共通理解を深める。
（9）少人数指導・個別指導を実施するための指導者や時間を確保する。
（10）多様な教材がいつでも使えるよう作成しておく。

7　MIM に関する事業を進めるにあたって期待すること

（1）指導力の向上
（2）「ひらがなの読字力」の大切さを理解し，分かりやすい授業に心がける。
（3）児童のモチベーションを維持しながら，繰り返し学習することにより定着を図るための指導力を培う。
（4）保護者・校内職員の理解啓発。
（5）保護者への理解啓発を進め，保護者と協力して「語彙力」「読字力」を育てる。
（6）職員研修等を通し校内の支援体制を構築し，多くの教職員で取り組む。
（7）実態に応じた指導・支援ができるよう校内支援委員会等につなげる。
（8）意欲的に生活・学習に向かう児童の育成につなげる。

８　MIM への要望

MIM-PM の４，５月からの実施について，実態を知るためにはもっと大きな文字で取り組ませたいと考えている。その改善案として，実際には検査結果には入れていないが，新年度４月～５月上旬に１回目のテストをＡ３，２枚に拡大して実態調査をしてみようと考えている。読めない児童の精神的ストレスをフォローすることも考えたいと思う。実践を重ねることにより，良い方法を工夫していけると考えている。

９　今後 MIM に関する事業を進めようとしている自治体へのアドバイス・メッセージ

MIM は，自治体の実情に合わせて事業を進められると思う。私たちは，担任に過度の負担かかからないように，児童支援のための担任支援ができるよう取り組んできた。

倉吉市は 14 小学校，児童数 450 人弱なので，担任と連携を取ったり，市教育委員会で集計をしたり，保護者・担任向け通信を発行したりできた。

担任の先生方とも連絡が取りやすく，それぞれの先生方も快く協力してくれだ。大人数になると難しいことも多くなると思うので，実情に応じた進め方の工夫が必要だと思う。

＊資料

資料１：MIM 通信（教員向け「ひらがな通信」）　（全９号）
資料２：MIM 通信（保護者向け「めざせよみめいじん」）　（全３号）

（文責:倉吉市教育委員会事務局学校教育課発達障がい支援アドバイザー　石橋良江）